

# すべてのAIが 同じ価値を生む わけではない

成果を最大化する企業研修のためのAI活用  
プレイブック



CORPORATE  
LEARNING

POWERED BY *efekta*

# 背景

近年、AIを活用した学習ツールは急速に普及し、学習機会の拡大やコスト削減を実現してきました。

しかし、学習においては、アクセスのしやすさやコンテンツ量の多さが、そのまま学習成果につながるとは限りません。

また、「AI」を謳っているツールのすべてが、実際に意味のある形でAIを活用しているわけでもありません。

本プレイブックでは、HRおよびL&Dのリーダーが自社の人材育成戦略を設計し、AIソリューションを適切に評価するための指針を示します。これにより、学習プログラムから得られる学習成果を最大化することを目的としています。



“AI”と称されるすべてのツールが、実質的にAIを活用しているわけではありません。

# 調査結果の示唆

多国籍企業における1,300名のHRおよびL&Dリーダーを対象とした当社の調査によると、企業研修の分野ではAIの試行や導入自体は広く進んでいる一方で、その効果的な活用にまで至っているケースは限られていることが明らかになりました。

本調査は主に語学研修を対象としていますが、AIをL&D全体にどのように適用できるかを検証する上での有効なケーススタディとなっています。

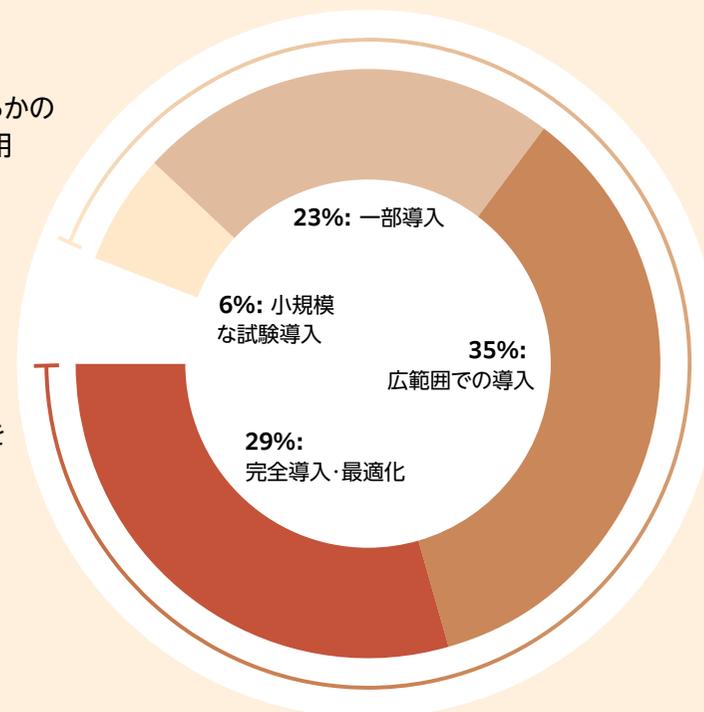
具体的には、学習コンテンツの生成、スキル習得のための実践、パーソナライゼーションといった領域において、AI活用の可能性と課題を示しています。



## 企業向け語学研修におけるAI活用状況

**94%**: 何らかの形でAIを活用

**29%**: AIを十分に導入・最適化



出典: EF Corporate Learning Maturity Report 2026

# マチュリティ(成熟度)とは何か — AIとの関係

本調査では、研修プログラムの開発度・成熟度(マチュリティ)を、以下の観点から測定しています。

- 研修コンテンツの質と設計
- パーソナライゼーションのレベル
- 定期的な見直し・改善の頻度
- 事業戦略・ビジネス目標との整合性
- 企業文化への定着度

調査の結果、語学研修プログラムの成熟度は、利益・売上・市場拡大・従業員エンゲージメントおよび定着率といったビジネス成果と強い相関関係を持つことが明らかになりました。

さらに、成熟度の高い研修プログラムは、AIを完全に導入・最適化している可能性が10倍高いことも示されています。その結果として、AIから得られる効果やインパクトの質も、成熟度の低いプログラムとは大きく異なります。



## 成熟度の高い研修プログラムを持つ企業は:

収益性が**2倍**高い

前年対比で売上成長を達成する可能性が**2倍**高い

研修プログラムにおいてAIを完全導入・最適化している可能性が**10倍**高い

出典: EF Corporate Learning Maturity Report 2026



一方で、学習成果を上げている高成熟度のプログラムでは、AIは「コストを下げるための手段」ではなく、「成果を高めるための仕組み」として統合されています。

# 語学研修におけるAIの主な効果

## 成熟度の低いプログラム

(Low-maturity programs)

- 1. コスト削減(43%)
- 2. 業務効率の向上(38%)
- 3. 品質の均一化(34%)  
迅速かつパーソナライズされたフィードバック(34%)

調査結果から、成熟度の低い研修プログラムでは、AI活用の目的が主にコスト削減に置かれていることが分かります。

## 成熟度が非常に高いプログラム

(Very high-maturity programs)

- 1. 業務効率の向上(67%)  
学習者エンゲージメントの向上(67%)
- 2. 迅速かつパーソナライズされたフィードバック(61%)
- 3. 学習成果の向上(60%)  
品質の一貫性・安定性(60%)

つまり、効果の高い研修プログラムほど、AIを活用してプログラム全体のインパクトを向上させているのです。

# 企業研修における「効果的なAI活用」とは

もはや問いは、「AIがL&Dに導入されるかどうか」ではありません。いかにして、AIのポジティブな効果を最大化するかが重要な論点となっています。

## データの質(Data quality)

人間の講師が効果的に教えるために質の高いトレーニングを必要とするのと同様に、学習向けAIの効果は、学習させるデータの質に大きく依存します。

多くのAIソリューションは、統制されていないインターネット上のコンテンツをもとに学習していますが、学習において真に効果を発揮するAIは、大量かつ実際の学習データに基づいて訓練されている必要があります。

## スキル構築(Skills-building)

多くの職場におけるAI活用は、人間のスキルを「代替」する用途に焦点が当てられています。

しかし、学習分野におけるAIの本質的な価値は、実証されたスキル習得手法を大規模に展開できる点にあります。

そのためには、AIソリューションが包括的なカリキュラム設計と、効果が検証された学習メソッドに基づいて構築されていることが不可欠です。



## データプライバシー (Data privacy)

組織のデータを保護するうえで、ベンダー選定は極めて重要な判断要素です。

パートナー企業がエンタープライズレベルの契約・セキュリティ体制を備えていることを確認するとともに、データをクローズドな環境内で管理する仕組みを持っているかを必ず確認する必要があります。



「AIは、語学学習において“何が有効か”を  
変えるものではありません。  
実証された学習手法を、すべての学習者に  
対して、よりスケーラブルに、よりパーソナル  
に、そして測定可能にするものです。」

- **Dr. Christopher McCormick**, チーフ・アカデミック・  
オフィサーEF Corporate Learning



# AI機能レベルの全体像

学習テクノロジーにおいてAIが標準機能となりつつある今、「AI」を名乗るすべての学習ソリューションが、同等の能力や学習成果を提供するわけではないことを理解することが、これまで以上に重要になっています。

特に、学習インパクトの観点では、その差は顕著です。

## 「AI」を名乗っているだけのレベル (AI in name only)

- AI搭載と称された、固定的なコンテンツプレイリスト
- 学習進捗と連動しない汎用的なアドバイス
- FAQへの回答や関連リソースを案内するだけの簡易チャットボット

## 基本的な自動化 (Basic automation)

- 初期アセスメントにより、標準的な学習パスを割り当て
- 課題完了後に次のモジュールが解放される仕組み
- 診断的ではなく、あらかじめ用意された定型フィードバック

## モデル支援型AI (Model-supported AI)

- レッスンの要約や追加練習コンテンツの生成
- シナリオやプロンプトの作成 (フィードバックは汎用的)
- 記述回答の編集やアウトプット補正 (根本的なスキル向上には未対応)

## 学習主導型AI (Learning-driven AI)

- 生成AIを活用した、適応型スキル練習・シナリオベース学習
- 個々のパフォーマンスに基づき、即時かつ実践的なフィードバック
- 実証されたカリキュラムに組み込まれ、実際の学習データをもとに訓練されたAI

基本的なAI

高度なAI

# AIソリューションの評価



AIソリューションを総合的に評価するための6つの視点

## #1

### パーソナライズされた洞察とフィードバック

- AIは、学習者一人ひとりのスキル、目標、パフォーマンスに合わせて研修内容を最適化しているか
- 学習者のエンゲージメントやアセスメント結果に応じて、コンテンツを動的に調整できるか
- 最新かつ、職種別・役割別、文化的背景を考慮したコンテンツを適切に提供しているか

## #2

### 分析とインパクト測定

- チームや組織全体における、現在および将来的なスキルギャップを可視化できるか
- 学習成果を、業務パフォーマンスやビジネスKPIと結びつけて分析できるか
- 学習・行動変容・成果といった構造化された評価フレームワークに対応しているか

## #3

### 自動化と効率性

- コース割り当てやレポートなど、反復的な業務を自動化できるか
- グローバルチームや多様な学習ニーズを、効率的に支援できる設計になっているか
- 既存のHRIS、LMS、LXPなどのプラットフォームと互換性があるか

# AIソリューションの評価

包括的に判断するための6つの重要な評価軸



## #4

### 倫理的な利用と透明性

推奨内容や評価において、アルゴリズムバイアスを防ぐための仕組みが講じられているか

従業員データがどのように取り扱われ、保存され、保護されているかが明確か

必要に応じて、HRが監督・介入できる明確な役割とプロセスが定義されているか

## #5

### 戦略的整合性

現在の人材・スキルを可視化し、将来的に必要となる能力と結び付けて整理できるか

社内モビリティやサクセッションプランニング(後継者育成)を支援できるか

自社の企業文化・価値観・経営戦略と整合しているか

## #6

### 変革マネジメントと定着

学習者・管理者の双方にとって、直感的で使いやすいインターフェースか

ベンダーから、導入時のオンボーディング、トレーニング、継続的なサポートが提供されるか

従業員自身がAIツールを使いこなす自信を高める設計になっているか

# 次のアクション

高インパクトな企業研修のためにAIを活用する、3つのシンプルなステップ



## ① 改善したい成果を明確に定義する

AIを学習に導入する際、\*\*最優先すべきは常に「学習成果の向上」\*\*です。

コスト削減は結果として得られる可能性はありますが、それ自体を主目的にしてしまうと、研修の質が犠牲になる恐れがあります。

明確なAI活用戦略を策定し、効果が実証されている学習手法やスキル構築を、いかにスケールさせるかに焦点を当てることが重要です。



## ② 学習インパクトに対するアプローチを評価する

本プレイブックで提示した評価フレームワークおよび重要なチェックポイントを活用し、

そのAIソリューションが実際の運用において学習の質を高められる設計になっているかを見極めましょう。



## ③ 実際に機能するかを検証する

多くの学習ベンダーが、似たようなAI機能を謳っていますが、実際の学習体験には大きな差が生じます。

可能な限り、自社でソリューションを試し、以下のような同一ユースケースをベンダー間で比較してください。

- ロールプレイ練習の質
- フィードバックの具体性・実用性
- 学習プロセスが時間とともにどのように適応・進化するか

EF Corporate Learning は、世界初かつ最大規模の法人向け語学研修プロバイダーです。

1965年より企業向け語学研修を提供し、1996年以降はオンラインで2,000万人以上の学習者を支援してきました。その長年にわたる実績とグローバルスケールは、他に類を見ません。

現在、3,000社以上の多国籍企業にサービスを提供しており、その多くが15年以上にわたり長期的なパートナーシップを築いています。

これらの企業からは、他社プロバイダーと比較して、エンゲージメントおよび学習進捗が3倍高いという成果が報告されています。

